

日吉山王社

ひよしさんのうしや

アクセスMAP



拜殿



鳥居

三河国八橋の地は鎌倉街道が通り、『伊勢物語』東下りの段(カキツバタの五文字を和歌に詠んだ)からころもきつつなれにし つましあれはるばるきぬる たびをしぞおもふ)で夙に有名である。その八橋の産土神である日吉山王社は、慶雲元年(七〇四)、真言宗無量寿寺(現在は臨済宗)の創建に際し、山門鎮護の神として日吉大社より勧請したのが始まりと伝える。明治維新後の制度



改めの際、社地の分割寄進をうけて、八橋村の氏神として独立、奉祀された。明治五年、村社に列格された。

祭礼時に立てられる大幟の揮毫は江戸時代の無量寿寺住職高遊外・方巖売茶(二代目売茶翁)による。

現在、隣接するカキツバタ公園で例年四月から五月にかけて、「史跡八橋カキツバタ祭り」を開催しており、期間中は神社境内も大勢の観光客で賑わう。

境内社には、神明社、八朔社、八坂社、天神社、杵島社、

山神社(二社)、明神社(池鯉鮒大明神)、八幡社、秋葉社、白山社、諏訪社、稲荷社、春埜山の諸神を祀る。

例祭は当初一〇月一四日だったが、現在はカキツバタの開花時期に合わせ、五月の上旬の日曜日となっている。年末の山神社祭に際しては、夜間氏子総代により焼サシマの振る舞いが行われる。

《鎮座地》愛知県知立市八橋町寺内六五―一
《御祭神》大山咋神